



大阪府中央会情報連絡員報告

府内中小企業の景況

2022年
8月

1. 8月のDIは、全9指標のうち4指標が上昇、主要3指標は、売上高16ポイント上昇、収益状況8ポイント上昇、業界の景況は77ポイント上昇している。
2. 8月末時点では、製造業では4指標のDIが低下し、また非製造業では4指標のDIが上昇している。

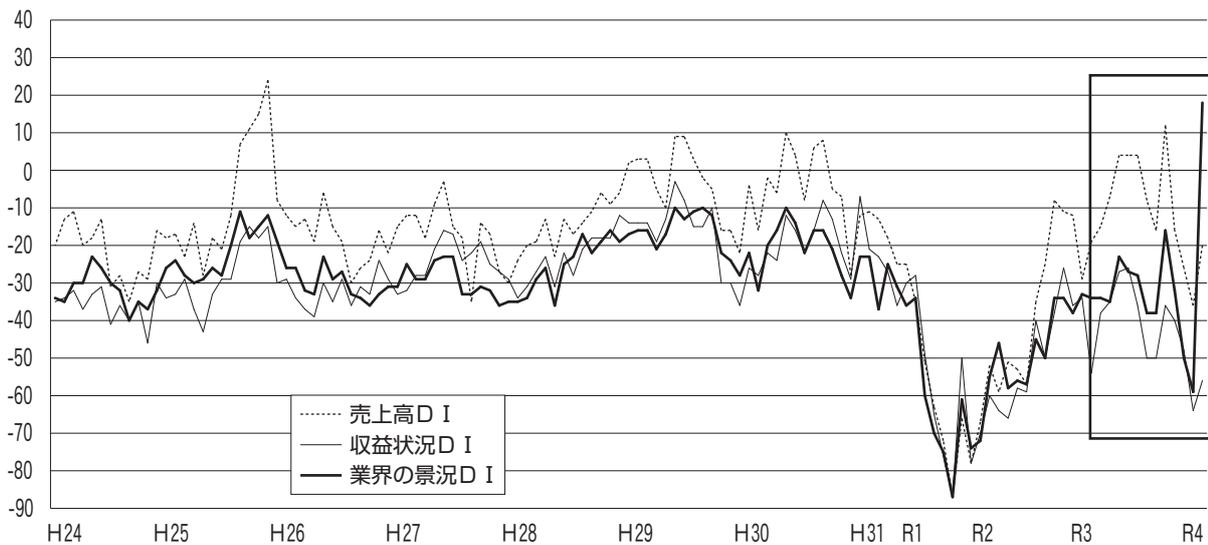
景況天気図

令和4年 8月分	全産業			製造業			非製造業			30以上 快晴
	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比	
売上高	△36 	△20 	↗ 16	△20 	△13 	↗ 7	△60 	△30 	↗ 30	10~29 晴れ
在庫数量	12 	5 	↗ -7	14 	0 	↗ -14	0 	33 	↘ 33	9~△9 うす曇り
販売価格	12 	12 	→ 0	13 	13 	→ 0	10 	10 	→ 0	△10~△29 くもり
取引条件	△24 	△24 	→ 0	△26 	△33 	↘ -7	△20 	△10 	↗ 10	△30~△49 雨
収益状況	△64 	△56 	↗ 8	0 	0 	→ 0	△70 	△40 	↗ 30	△50以上 大雨
資金繰り	△14 	△18 	↘ -4	△20 	△26 	↘ -6	0 	0 	→ 0	
設備操業度	△33 	△40 	↘ -7	△33 	△40 	↘ -7				
雇用人員	△4 	△30 	↘ -26	0 	0 	→ 0	△11 	△30 	↘ -19	
業界の景況	△59 	18 	↗ 77	△58 	△60 	↘ -2	△60 	△30 	↗ 30	

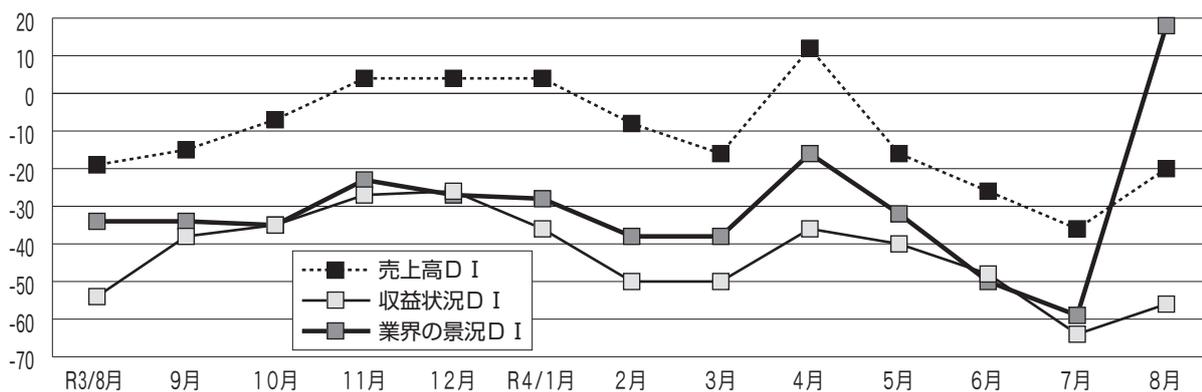
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H24年8月～R4年8月のD Iの推移



全産業 R3年8月～R4年8月のD Iの推移



業種別概況 (8月分)

【製造業】



水産食料品製造業

円安の影響で水産物の輸出が増加し、国内流通する水産物が減少しており、また加工品などのメーカー等に発注しても荷物が集まらない状況になってきている。組合員も飲食店等から注文がなければ利益は上がらないため、売上高、収益状況は減少し、業界の景況は悪化している。



綿・スフ織物製造業

電気代・糊付代・運賃等の値上げ分を製品価格に転嫁することが困難な状態で業界の景況は悪化している。



木材加工業

前年同月と比べて売上高はわずかに増加しているが、業界としては好転する兆しが見えず、依然として悪化傾向である。



古紙収集加工業

新聞古紙の発生は、夏枯れの影響を受け非常に悪く、仕入れ価格は上がったまま推移している。業界全体としての景況は悪化している。



製本業

長引く原油価格の高騰に伴う運送費などを、製品単価に転嫁できず取引条件は悪化し、先行き不透明な状況である。

**シール印刷業**

懸念材料として資材等の値上げが本格化し、価格転嫁が進まない状況にある。コロナウイルス関連の規制解除による社会経済活動を背景に、食品・電気製品・化粧品・物流・医療関連等業種でラベル需要が回復、売上高は増加し、業界の景況は好転した。

**セルロイドプラスチック製品製造業**

前月比25%減、前年比も30%減と非常に悪く、材料コストが急激に上昇する中で、消費者への価格改定(値上げ)が思うように進まず、業界の景況は悪化している。

**石鹼洗剤製造業**

コロナ特需の反動減が続いている品目もあるが、石鹼はほぼ前年並みに、合成洗剤も前年並みの回復が見られる。原材料・資材・燃料費の高騰は、様々なコストアップ要因となり、コスト吸収の自助努力も限界に近く収益状況は厳しい状態が続いている。

**鍛造業**

生産量は前年同月を下回り、2ヶ月連続の前年割れとなり約6%減少した。主力の産業機械用が少し増加しているものの、自動車用が先月から連続して前年割れであり、当面収益悪化が懸念される。エネルギー費の高騰が大きく影響する業種であるため、価格転嫁がスムーズに行われない状況が続けば、経営状況が大きく悪化することが懸念される。

**建築金物製造業**

燃料価格の高騰、原材料費や物流コストの上昇等により、業界の経営環境は依然として厳しい状況にあり、先行き不透明な状況が続くものと予想される。

**産業機器製造業**

日本製鉄がトヨタ自動車に対し、2022年度下期1トン40,000円の鋼管値上げを実施したことにより、今後、自動車をはじめとする関連製品の値上げが予想されるため、業界としては厳しい状況にある。

**印刷製本機械製造業**

この数か月同じ状態が続いているが、半導体を中心とした部材・部品不足が顕著になっている。また、景気的世界的減速感から輸出を含め新規注文が激減し、業界の景況感は極めて悪い。

**ブラシ製造業**

業界の景況としては安定している。

【非製造業】**電気機器卸売業**

業界全体として前年度対比で増収・増益を確保しているが、一部部材の供給不足や為替(円安)の影響もあり、利益率の圧迫等先行きへの影響が懸念されている。

**衣服・身の回品卸売業**

急速な円安により各種原価が値上がりし、利益が大きく減少しており、収益状況、景況とも悪化している。

**二輪自動車小売業**

新車の供給不足によりメーカー専売店とそれ以外の組合員との販売格差が大きくなりつつあり、先行きへの影響が懸念されている。

**地質調査業**

大阪府の地盤調査物件が前年度に比べ、やや低調との見方をしている組合員がいる。選挙後の入札物件の増加が見えないとの見方があった。民間物件についてもやや少ないとの声があり、先行き不透明な状況である。

**警備業**

ウイズコロナの下で社会経済活動が再開され昨年まで中止されていたイベント等が開催されるようになり、受注件数や売上は昨年同月より若干増加し、収益状況は業界の景況とも好転している。

**建設業**

工事関係の受注はほとんどなく業界の景況は悪化している。

**タイル工事業**

資材・輸送費の値上りの影響を受け、収益状況は悪化している。

**貨物運送業**

前年同月に比べ引越件数はやや減少した。販売価格は同程度に若干戻りつつも、燃料価格の高止まりが続いており、業界の景況は悪化している。